

令和 3 年度

事業所名 : グループホームサンフラワー

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200079		
法人名	社会福祉法人若竹会		
事業所名	グループホームサンフラワー		
所在地	〒027-0048 岩手県宮古市板屋四丁目4番2号		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

□ご利用者の在宅での生活歴を大切に、一人ひとりの思いに寄り添えるよう、余暇支援や季節の行事などを工夫しています。また、社会との関りも絶やすことなく地域行事などには積極的に参加しています。

□ご家族とは毎月の面会時だけではなく、定期的に写真付きのお手紙をお送りして、情報を交換し、ご利用者とご家族に安心して頂けるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は高台の静かな住宅地の中にあり、近くには千徳小学校がある。法人は宮古市内に特養を始めとする複数の介護施設を運営している。法人理念「いたわりとやさしさ」を基本に、事業所の具体的運営方針(行動目標)を「一人ひとりにあった対応を心がけそのひとらしい生活を支援します。」などとし、一人一人の利用者に寄り添い安心した生活ができるよう、日々のケアに努めている。コロナ禍であるが、小学校とのリモートによる合唱会を開き、利用者は面会制限が続く中で子供たちの合唱に喜びの拍手を送っている。また、看護実習生の実務研修を受け入れ、若い学生との交流も行っている。現在は開催を見合わせているが、定期的に家族と利用者、職員が交流する家族会があり、家族の意見や要望を伺いながら、相互の協力関係を醸成する機会としている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホームサンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の運営方針をいつも目に付きやすい場所に掲示し、職員間で共通の認識を持った上で共有と実践に努めている。	法人内各事業所共通の理念である「いたわりとやさしさ」を基に職員の話し合いで事業所の運営方針(行動目標)を定め、その理念、運営方針に沿って利用者が安心した生活ができるよう日々の介護に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナ流行による為、地域の行事などの開催がなく、交流の機会が持てない状況にあるが、リモートなどを活用して地域の小学校の児童との交流に積極的に取り組んでいる。	コロナ禍により地域のお祭りなどが中止されている中で、毎年恒例の小学生の合唱会をリモートで開催した。画面に向かい拍手し手を振り、子供たちから「いつまでも元気で」の激励を受けた利用者の元気な姿が見られたとしている。夏には看護実習があり若い実習生との会話やゲームで楽しんでいる。	一日でも早く、利用者が子供たちと直接触れ合う機会が待たれるところですが、その間も利用者の笑顔と元気な姿が見られるよう、リモートの活用等の取り組みを今後も期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元住民によるお喋り倶楽部との交流もコロナ禍の為実現できていない状況で、交流の機会を設けることが出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動内容やご利用者の状況を報告し、委員の方から率直な意見や助言を頂き、業務に活かしている。	会議では利用者の活動の様子や事故・苦情等を報告し意見を求めている。外出制限が続く中で利用者の筋力が弱まり転倒事故もあったが、その報告の際に委員から「転倒予防体操」の提案があり、早速機能訓練士によるリハビリ体操を取り入れ筋力強化を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場で活動状況を報告し、助言を頂いている。他にも分からない事がある時は、市役所介護保険課担当者に随時連絡をとっている。	市介護保険課の職員が運営推進会議のメンバーでもあり会議を通じて情報交換等を行ってきたほか、必要に応じ市に出向いたり来所していただいたりと、良好な協力関係を築いている。利用者の入退去に関しても適切な指導や助言を受け迅速な対応がとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束委員会」からの助言・情報を反映させながら身体拘束をしてはいけないという事を職員一人ひとりが理解し、窓や玄関なども施錠せず抑圧感がない普通の暮らしを支援している。	法人全体の身体拘束廃止委員会が年4回開催され管理者が出席しているが、その内容を事業所の権利擁護委員会等で伝え共通認識を持つようにしている。これまで身体拘束の事例はなく、スピーチロックや転倒防止などの対策が主となっている。夜間、居室での転倒事故以降、センサーを設置し利用者の安全確保を図っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームサンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待といった人権無視のケアはあってはならないことと認識し、業務の中で不適切と思われるケアを放置せず注意をしようほか、カンファレンスの中でケアを見直す取り組みをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修を通じて学んだ制度の理解や知識を、支援が必要となった場合は、助言や橋渡しができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居の際は十分な説明を行い、納得を得た上で手続きを進めている。料金改定の際は、文書通知や来訪時に説明し、疑問な点があれば応えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回を予定していた家族懇談会はコロナ感染症対応により中止しているが、ご家族に運営推進会議の資料を送付、施設運営や活動状況について定期的に知らせている。また、面会や通院付き添いなどの来所時にはご家族より要望等を受け対応をしている。	例年、家族会議を5月と9月の年2回開催し意見交換や要望を伺っていたが、コロナ禍以降中止している。家族の中に運営推進委員になっている方もおり、会議で改善点、要望等の意見を頂戴し業務に活かしている。また、通院の付添いや面会時などには家族から意見や要望等を聴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善会議やカンファレンスを通じて、ケア実現の職員の意見を聞き、モチベーションやケアの質の向上につなげている。会議に参加できない場合も意見等のメモを活用し、全員の意見を反映するように努めている。	毎月開催する業務改善会議の中で職員の意見を聞く機会を設け、会議は何でも話し合える場となっている。職員から「通院介助に時間がかかるため始終業の時間を変更しては」との提案があり勤務時間を見直している。年1回、所長が個人面談を行い、私的なことを含め何でも話せる雰囲気となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や聞き取りを通じて、各職員希望や提案等を把握したり職場全体でワークライフバランスの取り組みを実施し、職場環境につながるよう対応している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームサンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量の把握に努めているが、法人内外の研修への参加が難しい。これまでに業務改善会議内で、栄養・衛生管理についての研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染症対応により、他施設との交流が実施できていない状況であるが、最寄りの地域包括センターとの連携・関係の構築に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族から事前の情報や要望を確認し、ご本人らしい生活や思いを感じ取り、徐々に馴染みの関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を行い、グループホームでの生活やケアの方針についてできるだけ詳しく説明し、ご家族に戸惑う点や要望に耳を傾け、関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の生活も大切にしながら新しい環境に早く馴染んで頂けるよう支援の工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活歴や得意なことを活かしながらリハビリにつなげ、ご利用者同士がお互い思いやりながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係が途切れないよう通院対応は可能な限りご家族に行っている。面会制限を設けており、面会の機会を十分に取れなくなっている分、ご家族との連絡は積極的に行いながらその関わりを大事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら馴染みの美容院などに行っている。	東日本大震災以降、馴染みの場所が大きく変わった中であって、ドライブ時に立ち寄る浄土ヶ浜の風景は利用者にとって思い出に浸れる場所となっている。運営推進委員でもある小学校の校長がリモートによる合唱会を設け、子供たちとの交流を絶やさないようにしてくれている。コロナ禍前はお喋りクラブの皆さんと会話したりボランティアの方とハーバリウム作りを楽しんだりもした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や認知レベルに配慮したり、ご利用者間の関係の理解に努め、ご利用者同士が関わり合えるよう職員が橋渡し役をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移行先の生活相談員やケアスタッフとの情報交換の場を持ち、ご本人の状況やケアの工夫等の情報を詳しく伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より、ご利用者と会話しながら思いや意向を明らかにしている。	大部分の利用者は自分の思いや意向を言葉で伝えることができ、職員は日常生活の中でそれを聞き取るようにしている。その思いや意向をケースに記録しカンファレンスやモニタリング時に職員間で共有・検討し、プランの追加見直し等を行いサービス向上に繋げている。利用者の中には来訪者を玄関先で出迎えたりお茶出しのおもてなしができる方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に調査を行い、ご本人の生活歴や馴染みの暮らし方を把握している。また、ご家族が面会に来た際にも在宅生活をしていた時の話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の能力や、できる事の発見に努め、「私のできる事、できない事シート」で現状把握に努めている。状態が変化した場合はカンファレンスを実施、支援方法を検討したり、シートの内容も随時更新している。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホームサンフラワー

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員は利用者との関りの中で、利用者個々の今できている事に視点を置き状況を把握している。そしてカンファレンス内で職員同士が情報共有と協議を行い、現状に合わせたケアプランとなるよう内容について検討している。	ケアプランはケアマネジャーが利用者の生活歴や家族の意向を聞き取るなどしながら原案を作成し、職員会議に諮り、家族の同意を得た上で本プランに移行している。プランの見直しは3ヵ月、6ヵ月毎にモニタリングを行い、利用者が今できること、今後どのようなケアが望ましいか等、カンファレンスで職員が意見を出し合いケアプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の変化、その他気づいたことなどはケース記録や申し送りをし職員間で情報共有しているその情報からご利用者の介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的に受診等が必要となった際には、母体施設のサンホームみやこ職員と連携をとって対応したり、管理栄養士や機能訓練指導員など多職種の協力を得ながら、利用者やご家族からのニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元自治会の行事や地域の方、近隣小学校との交流、地域の方々とも積極的に交流し行事なども楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族の希望するかかりつけ医を受診できるよう、ご家族とも連絡を調整し速やかに受診できるようにしている。	利用者全員が入居前からのかかりつけ医(内科、皮膚科)の受診を継続している。受診は家族同伴を基本としているが、家族の都合で職員が付き添う場合は、医師の診断等をその都度家族にお知らせしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化を捉え、そこから生じる急変を予測して早い段階で職員間で相談しながら、状態悪化を防ぐべく速やかな受診を行っている。ご家族の協力が難しい時はサンホームみやこ職員とも連携して柔軟に対応している。		

事業所名 : グループホームサンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は、ご家族の同意を得た上でご本人に関する情報提供を行い、医療関係者とも連絡を取り、短期間での退院につながるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状況を常にご家族に伝え、重度化した場合は随時ご家族と今後の方針や施設での対応力などについて説明している。母体施設(特養)への継続的移行を話し合うなど、ご家族には安心を抱いて受け入れられている。	本人、家族には入居前に重度化や看取りの対応について説明し了解を得ている。重度化の兆候が見られた場合は、関係機関と協議し法人内の特養への入所手配を早めにするなど、家族が安心できるよう取り組んでいる。看取りについては、法人の理事長であり協力医でもある山口病院が対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいて、手順や方法の周知徹底や心肺蘇生法、AED仕様方法の訓練を実施し、緊急対応のスキルアップを図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施消防署員立ち合いで、日中想定や夜間想定など様々な場面を想定した訓練を行っている。	夜間火災発生時に屋外避難した利用者の安全確保として、事業所周辺に住む20名程の法人職員が招集訓練等に参加し、災害時の対応に備えている。年2回の総合訓練のうち、前期は職員の転出入等により改めて消化設備の所在確認や火災通報訓練を行った。後期は夜間想定訓練を計画している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の運営方針を念頭に、一人ひとりの人格を尊重して、気持ちに寄り添った対応を行っている。	利用者の呼び方は「さん」付けで統一し平等に接することを心掛け、手伝いをお願いする時も同じ目線で「お願いします」と優しく声掛けしているほか、トイレ利用時などは周りへの気配りや羞恥心に配慮し、法人の理念「いたわりとやさしさ」を実践している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームサンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者からの話や要望を聞きながら出来るだけご希望に添えるよう対応を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個性と持てる力を発揮しながら、ご本人が自然なペースで一日を過ごせるような柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族にご本人が好む衣類を用意して頂いている。通院などで外出の際は、その日の気候に留意しながらおしゃれをして出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせた食事形態で提供できるように配慮している。また、出来る方には食事の準備や片づけをしてもらっている。ただし、コロナ感染症対応の為、職員はご利用者と一緒に食事をとっていない。	朝食、昼食は職員がメニューを考えて提供し、夕食はケータリングを利用している。ケータリングで職員の負担が少なくなった分は、利用者との触れ合いの時間に活用している。利用者は食事前後の盛付け、テーブル拭き、食器洗い等を手伝っている。菜園ではキュウリ、インゲンを育て成長の過程を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の体調や嚥下状態に応じた食事形態の工夫や嚥下の見守り、声掛け等の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、義歯と歯ブラシは除菌を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人にあつた排泄用品を使用している。失禁が多いご利用者も可能な限りトイレ誘導を行っている。	排泄は家庭生活の延長線上と捉え、事業所内においても普通に接することを心掛けている。日中はほぼ全員が自立トイレを利用でき、夜間は念のため2名の利用者にポータブルを置いている。失禁した場合でもご自身で着替えをする利用者もおり、職員はさりげなく見守っている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホームサンフラワー

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事を心掛け、水分も十分な量を摂取できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施している。一対一で入浴を行い、ゆったりと入浴ができるようにしている。	入浴は日曜を除く週2回を基本とし、利用者の体調を見ながら無理強いないようにしている。職員の家で育てている菖蒲を入浴剤として使用し、季節感を味わいながら入浴を楽しむ工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はお手伝いリハビリや余暇活動を行い、できる限り身体を動かし、夜の熟眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の内服している薬情報を個々のケースファイルで把握している。服薬支援を行い、状態の変化がないか把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のお話をよく聞き、出来る事、ご本人が楽しめることなどをケアプランに盛り込み、精神的にも安定された生活が出来るようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症対応により、外出支援は難しい状況で実施できていない。	コロナ禍で外出が大幅に制限されている中で、通院の帰り道に懐かしい思い出の場所に立ち寄ったり、天気の良い日には、庭に出て外気に触れながら桜や紅葉など四季折々の風景を眺め、ストレスを発散するようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しく職員が管理しているが、買い物の際は、個々の財布を持って出かけ、職員の見守りで行っている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホームサンフラワー

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により取り次ぐなど、自由に電話を使用できるようにしているほか、4か月毎に近況報告とともにご本人からご家族に伝えたいことを記入して頂き、写真付きで送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭から採った季節の花や植物を食卓や洗面所に飾り、季節感を大事にした環境作りを心掛けている。リビングからは家庭菜園が眺められ楽しむことができるようにしている。	昼食後に職員と一緒に食器を洗ったり、テーブルで気持ちよく昼寝をする姿が見られ、利用者それぞれ思い思いに過ごしている。外出制限でホールで過ごす時間が多くなり、しりとりゲーム、かるた取り、風船バレー、ソファで体操など、職員が楽しめることを工夫している。年末も近くなり、クリスマスの飾り付けの準備をしながらサンタさんが来るのを楽しみしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一日の殆どをリビングで過ごされ、ソファ、テーブル席に気の合う同士テレビを観ながら、お話をしたり、好きな音楽を聴いたりと過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や椅子、テーブルなど、使い慣れた生活用品、着慣れた服、寝具等に囲まれた居室はご利用者の気が休まる空間になっている。	整理整頓され清潔感のある居室には、ベッド、クローゼットが備え付けられ床暖房とエアコンで温度管理をしている。それぞれ、暮らしに合わせた生活用品、衣類等が持ち込まれ、中には仏壇を置き故人を偲ぶ利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かる工夫、自分の排泄用品の始末ができる工夫、自立に向える支援をしている。		